

2023年3月7日

特定非営利活動法人 小学校英語指導者認定協議会

トレーナー認定委員発行

実技試験

○実技試験の環境整備

オンラインでの模擬授業では、Wi-Fi環境を充実させ、トラブルがあった場合にバックアップできるデバイスを準備するなど入念な環境整備が必要である。画面上では、どう映っているかを意識し、顔が適正に見える中央にしっかり位置する。これは、教室でも教師が児童からどのような「見え方」をしているか、意識することにつながる。指導者は、常に子どもたちから見られていることに配慮することが求められる。また、指導者の指示を理解できるように名前呼び、発話を促すなど、児童がオンラインでの授業に安心して参加できるように配慮するのも指導者の役割である。

○実技試験

「導入」が授業でどのような役割を持っているか、そして、「導入」の段階で児童のレディネスはどの程度なのかをしっかりと考える必要がある。単元の最初の「導入」であれば、児童が言えることは限られているので、まだ話せる段階でないことを十分に意識する必要がある。言えない場合に、無理やり練習させる必要はなく、まずは、場面や状況からどのようなことを言っているのか、推測して理解させることが重要である。特に、オンライン形式で指導する場合は全ての児童が、今何が起きているのかをわかっていると思込めないことも大切である。「導入」は、興味・関心を促すだけでなく、児童の思考を刺激するものである。児童の参加を促し、これからの学びを自分のものにできるようにする機会である。また、指導者にとっては、児童がどのような知識を持っているかを調査する機会でもある。

また、模擬授業では適切な Teacher Talk を使うことを心がけてほしい。わかりやすい英語で授業を進める受験者が多かった中、残念ながら、発話や児童への問いかけの英語が正確ではない受験者も見受けられた。また、学年に応じた発話の速さや英語表現を工夫することも必要である。

○コメント・アドバイス

コメント・アドバイスでは、持ち時間を有効に使って、授業のよかったことや改善すべき点を的確に指摘することが求められるが、かなり時間が余ってしまう受験者がいた。トレーナーという立場で助言・指導をする場合、与えられた時間をフルに活用し、時間通りに終わることが非常に重要である。まずは授業者の良かったところをたくさん探して承認し、その後、「もう少しこうすればよりよい授業になる」という視点で自身の指導経験も付け加えて、「このようなこともできる」という具体的で建設的なアドバイスが望まれる。授業の良かった点を評価すると共に、授業改善につながる説得力のある指導も求められる。日頃から「人を育てる」という視点で、児童や指導者と関わり合いをもつとよいだろう。フィードバックするだけでなく、フィードフォワードすることも意識してほしい。過去にとらわれず、未来に目を向け、学習者にとって最適な学習内容、環境を提供すべく、愛情や思いやりをもって指導者を育てていくという意欲をコメント・アドバイスでは見取っている。

領域 1

今回の第1領域は、第二言語習得の基礎基本に立ち返った出題をしました。それだけに具体的な例とともにわかりやすい回答を期待していました。単に用語として知っているだけではなく、それが何を意味し、実際の教育現場でどのように適用されるのかをかみ砕いて説明する、というのがトレーナーの役割です。理論を知識のレベルで終わらせるのではなく、指導の場面に落とし込んで使っていくことができなければいけません。その意味では、まだ十分な理論の理解があるとは言えませんでした。どの受験者からも英語の指導体験の豊富さは感じられました。今後は、理論と実践を兼ね備え、教員指導にあたれるようさらに研鑽を積んでほしいと思いました。

今回の試験では、表面上に出てくることばや行動の背後にある現象について思いをめぐらせることをテーマに問題作りをしました。第1問は、学習者の間違いの背後に何があるのかを考えることを求めています。そして、第2問は、子どもが英語の発話をしようとしなない背景にどのような原因があるのかを探っていくことを求めています。いずれにせよ、表面に現れてきたことに直ちに反応するのではなく、それらを通して学習者の心理的側面に心を向けて指導することが必要である、という作問の意図を感じていただけたらと思っています。

第1問は、第二言語習得あるいは応用言語学の古典的な「誤り」に対する見方を問うた質問です。理論の発展の歴史と照らし合わせると、「母語干渉による誤り」がより早期の言語習得の考え方になります。誤りは学習者の母語と学習言語の構造の違いによって生じるもので、その二つの違いが大きいほど誤りが出やすいというものです。受験者はこの例として語順をあげていた人が多かったのですが、考え方は良いものの、実際に I English like don't. のような発話を日本人の英語学習者がするケースは考えにくく、実態に即した例とは言えないかもしれません。それより発音を例にあげた方が説得力があったでしょう。「発達上の誤り」については、その定義と例をうまく解答できた方もいらっしゃいましたが、大事なポイントとして「表面上は誤りだが、言語発達のステージは進んでいる」ケースについて言及がなかったのが残念でした。これは領域3の出題とも関連することですが、初期の段階でチャックとして丸覚えして使っていたものを、学習者が自分なりの分析を通して一定の規則があることに気がつきます。そして、その規則を利用してこれまで聞いたことがなかったことばを生み出すことができるようになりますが、過剰に適用してしまい実際には存在しないことばを言うてしまうという現象が習得の段階で見られます。表面上は誤りが増えてきたように見えますが、これは丸覚えから規則性を発見したという「進歩」を表す現象です。つまり、言語習得が進んだのです。それをきちんと見取ってあげることが指導者の大事な役割だということが重要なのです。

第2問は、答えを一つにしぼる必要はありません。Krashen の Affective Filter 仮説でも良いですし、Silent Period と考えることもできます。必読書にははっきりと書かれていないのですが、anxiety や peer pressure が影響しているかもしれませんし、そもそも「授業は静かに先生の話聞くもの」という日本の学校文化が発話を自由にできる心理にさせてくれないのかもしれません。そういった環境要因を上げてでも正解としました。受験者はKrashenの理論を用いて説明し、対処法として緊張をほぐしたり、安心して発言できる雰囲気を作り出したりという対処をすると解答しており、これらは理にかなっていると考えられます。また、Krashen の input 仮説を用いて、学習者にはまだ難しすぎるタスクが与えられているために表現できない状態にあると説明した方も複数いらっしゃいました。input 仮説はもともと input の難易度を示したもので、発話を求めるタスクの難易度を考慮した理論ではないのですが、input 仮説の転用と考えればそういった説明もありかもしれません。また、対処法として、指導者が子どもに話しかけることで、子どもが一人ではできないことをできるように手助けするという社会文化理論の scaffolding の考え方を示した方もいらっしゃいましたが、理論を適切に用いた対処法が提案できていると思いました。他にもグループワークなど小さなユニットで発話させるなど教室環境を変えることも有

効な手段かもしれません。いずれにせよ、こちらが想定した正解を答えるよりむしろ理論から導き出される妥当な対処法を提案できるかどうかを測る問題を出题したでした。なぜなら、それこそがトレーナーに求められる資質だからです。

今回の2問を通して、あらためてトレーナーには何が求められているのかを思い起こしていただけたらと思います。

領域2

領域2は、小学校の「外国語活動」と「外国語」における評価について説明をし、さらにICTの活用の現状と課題について論じる設問であった。どちらの問いも、むしろ学習指導要領に照らして十分に理解しており、かつ、各々の指導経験をもとに児童の発達段階との関連も踏まえて述べるのが必須である。レファレンス等を参照可でのオンラインの口述試験という性質上、求められるのは単なる知識ではない。指導者としての実感を伴う具体的な事例をしっていることが必須であろう。さらには小学校英語の現状と課題に対して、日頃から問題意識をもって情報収集にあたっているか、自分の関わる自治体や地域に留まらないマクロな視座で「論じる」ことができるか、なども問われる。ただ単に現状を解説するだけでは不十分と言えよう。「論じる」ということはある程度主観を交え主体性をもって斬り込んでくる回答が求められる。単なる意見に終わらせないように、自分の意見を裏付ける理論やデータに則り、「Aという考え方もあるが、Bでもよいのではないか、その理由は〜」「Cという現状があるが、それを踏まえてDのような方策を…」のように踏み込んで展開していけるロジカルな表現力をトレーナーには求めたい。小学校での指導実践に対して、理論と経験に基づいた説得力のある発信を行う指導的な役割が求められる立場だと考えるからである。

今回、回答時間を余らせてしまい無言の時間が過ぎ去るのを待つ状況になるケースが複数見られた。もったいないことだと思う。たとえば授業研究での指導講評などを想定すると、与えられた時間を過不足なく使うことは重要であろう。この試験では、自分が「知識・技能」を持っていることをただ一方的に示すだけでは不十分であり、時間も余ってしまう。現場に自分の経験や知識や技能を還元するためには、それらを客観視し要素を絞ってわかりやすく具体的に示すこと、そして説得力ある的確で無駄のない話し方で相手に伝えることも必要となる。トレーナーとして求められる資質と能力は多岐にわたるが、これらを磨くことで小学校英語教育の推進に欠かせない存在となるはずである。

領域3

領域3では英語指導法の知識と、英語運用能力が同時に問われるので、配点は最も高く設定されている。今回の設問は課題テキスト Teaching Young Language Learners より、「語彙チャンク」に関する抜粋文を扱った。まずテキストの音読は、正確さ、流暢さ、発音、意味のまとまりごとに区切っているか、等の基準で採点を行った。どの受験者も8割以上はクリアしていたが、一部のアカデミックな語彙に顕著な発音の間違いが見られた。教室で使う英語だけでなく、普段から幅広いジャンルのテキストを読むことを心がけたい。

設問1は2種類の「語彙チャンク」、Fully fixed chunks と Partially fixed chunks の特徴とその機能を問うものだった。Fully fixed chunks は、一言でいうならばそれ以上分解する必要のない、固まりで機能するものと定義することができるが、ここで重要なのは、unanalyzed 「分析されていない」という言葉である。「話者がその表現を発話する際に、分析されずに、一つのかたまりとして出てくるもの」と言えれば満点だったが、analyzed, unanalyzed という言葉を説明に加えたケースは見られなかった。また Fully fixed chunks は定型表現として、適切な場面で使えれば、よりスムーズなコミュニケーションを可能にすることも留意すべきポイントである。一方で、Partially fixed chunks は、一部が分解可能で、フレームとスロットのようなものを持ち、より自由度のある

表現を作り出すベースとなるチャンクである。Partially fixed chunks を上手く利用することで、児童のより自発的な発話を促すことができ、本物の言語活動に繋げることができることも重要なポイントである。

設問2は、2種類のチャンクの特徴を踏まえた speaking の指導とはどうあるべきか、という問いであった。この問いでは、普段指導者が英語の表現をどのように理解させているかという事例から、生き生きとした現場の様子が浮かび上がり、高評価を得た。Fully fixed chunks は使う場面と常に結び付けて教えることが大事であること、Partially fixed chunks はどの部分が入れ替え可能かを明示したり、パターンで見せて、気づかせることが有効であると言及した場合は加点の対象となった。

トレーナー検定試験の受験を考えている方は、まず J-SHINE ホームページに掲載されている試験の概要に十分目を通してほしい。実技試験・口述試験で求められる資質・能力を理解した上で、受験準備に臨むことを期待したい。J-SHINE が目指すトレーナー像は以下の通りである。トレーナーに求められる力を確認し、どのような準備をすべきかを考えてほしい。

- ・小学校英語教育に関する十分な知識を持っていること
- ・小学校外国語・外国語活動の指導者として十分な指導技術を持っていること
- ・高いコミュニケーション能力を持ち、指導者への適切なアドバイスができること
- ・英語で指導者研修ができる英語力があること
- ・共生社会に貢献できる協調性があること

2020 年度以降、トレーナー検定試験はオンラインでの実施となっている。資料を参照できる形式となった中、単なる「知識」のみを問う出題ではなくなった。口述試験では、十分な準備をしたうえで、蓄えた知識をどのように自分の中で体系化し、自分の実践とつなげ、論ずることができるかが問われている。「知っている」「わかっている」だけでなく、指導者として、いかに相手に「伝え」「教え」「共感を呼ぶ」ように語るか、という視点が必要である。さらに、自分の発信が相手に響き、実際の現場での指導に反映されるためには、自分の持っている知識や考えを効果的に相手に伝えるプレゼンテーション能力が必須である。オンラインの画面上ではあるが、相手を意識した話し方ができているか、相手にどのように自分が見えているかなどの「相手意識」を持った話し方が求められる。2分、3分といった制限時間を余すことなく活かしきり、内容の濃い回答をするためには、文を短く切り、端的に要点を話す意識も欠かせない。トレーナーを目指す方には、日頃から「知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」や学びに向かう力・人間性も意識した発言や回答を習慣化していくことを強く勧めたい。